

横浜市インフルエンザ流行情報 7号

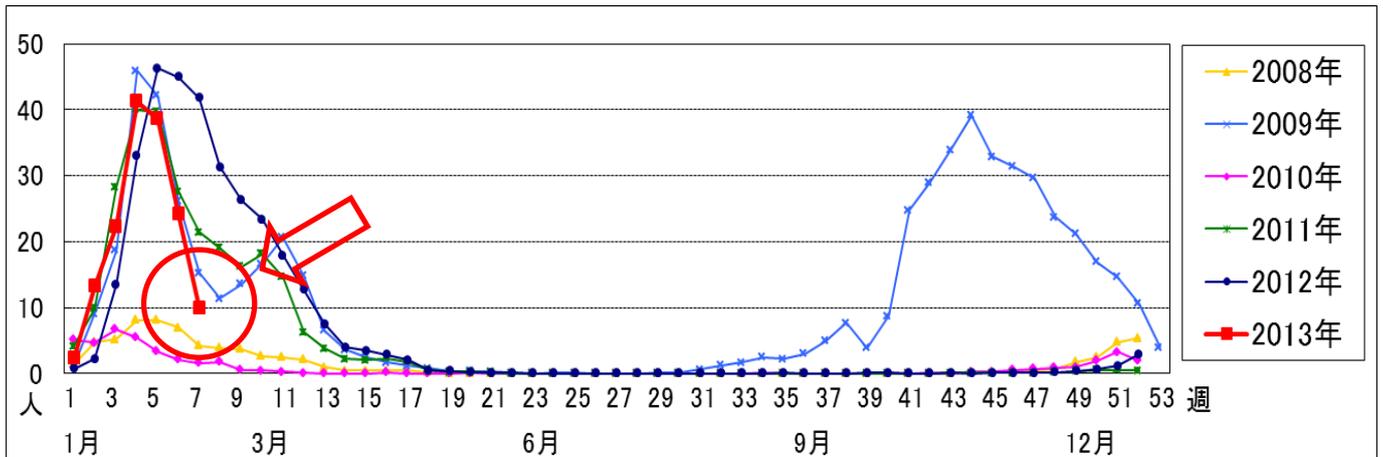
横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

- **報告数は減少傾向ですが、現在も警報発令中です。**
- 重症者（入院患者）の報告が続いています。
- 予防では、うがい、手洗いや、マスクをしましょう。
- もし罹った場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

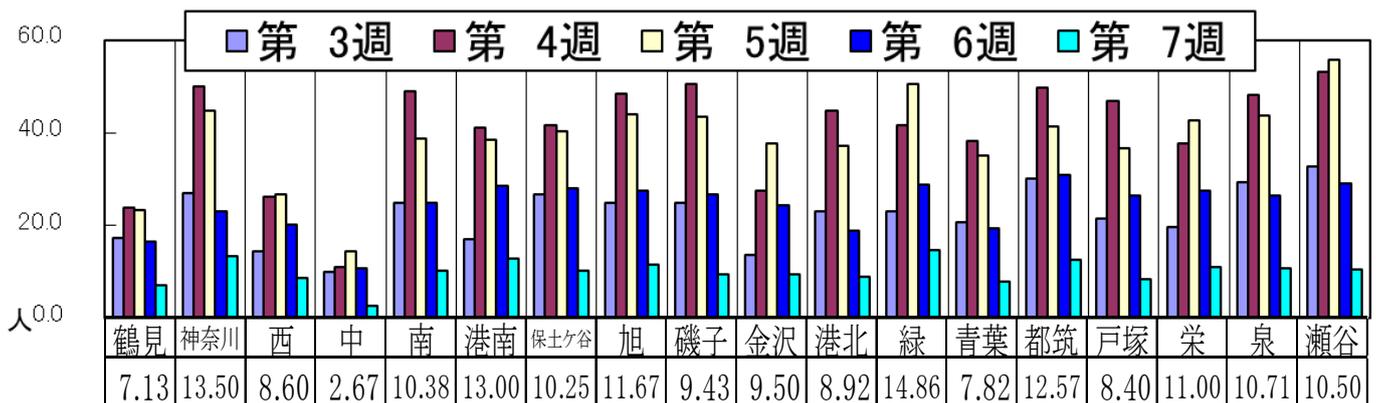
※参考 平成24年度 今冬のインフルエンザ総合対策について(厚生労働省)

1 市内流行状況: 第7週は定点あたり **10.02** と、ピーク時の 41.54 からかなり減少しましたが、依然として警報レベル^{*1}を維持しています。

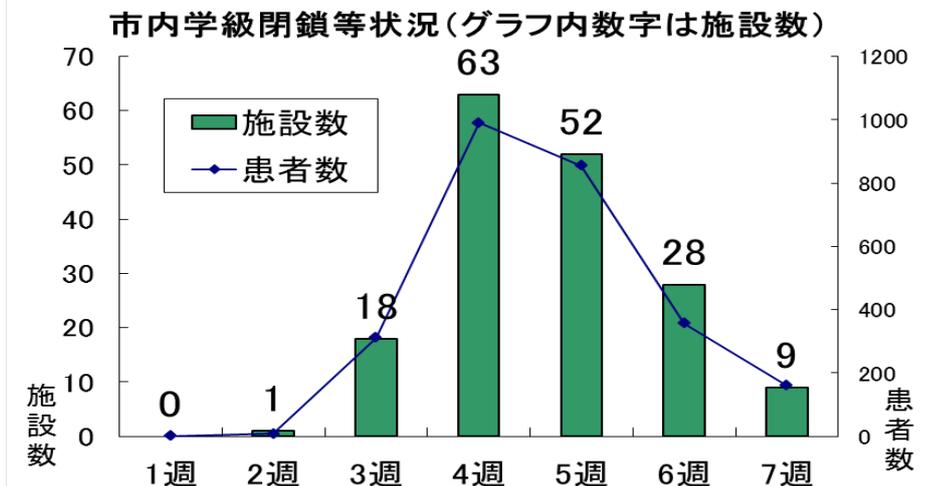


※1 警報レベル…警報開始基準値(30.00)を上回ると、終息基準値(10.00)を下回るまで警報レベルが継続します。

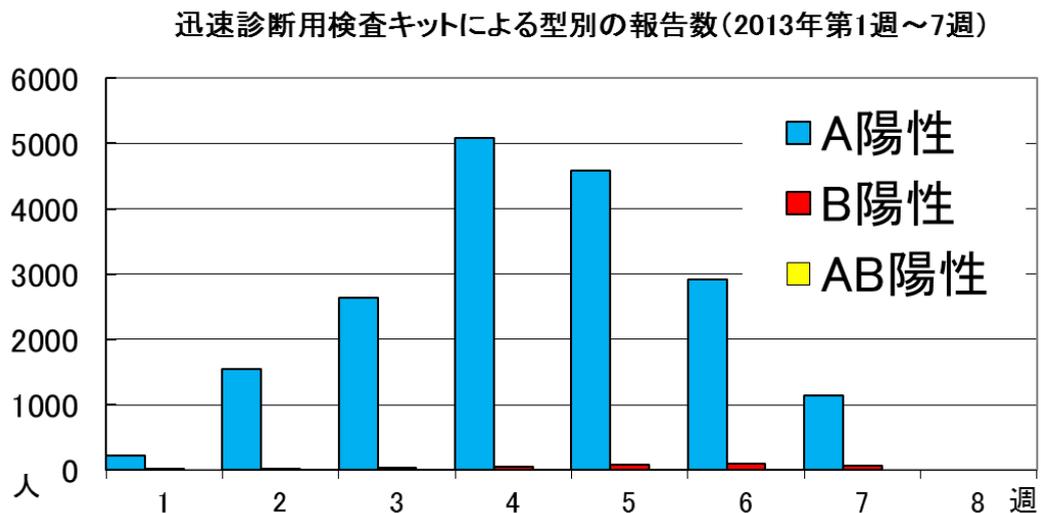
2 区別流行状況: **多くの区で減少傾向**です。ただ、**現在も10区で警報レベル(一度警報開始基準値30.00を上回ると、警報終息基準値10.00を下回るまで警報レベルが続きます)**となっています。



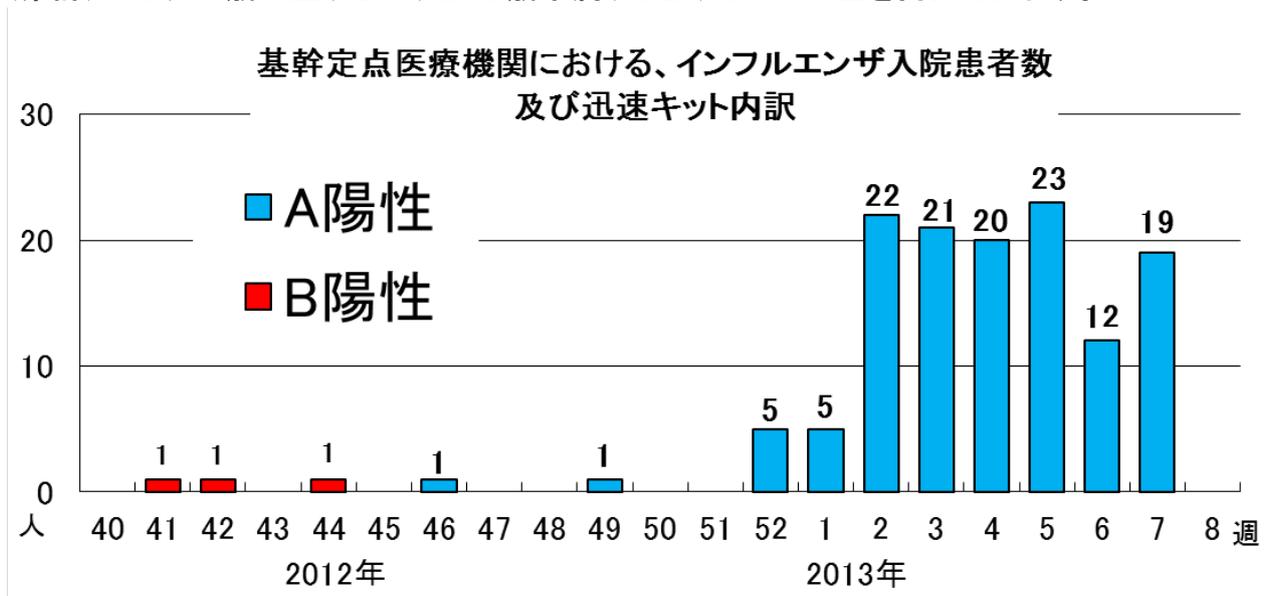
3 市内学級閉鎖等状況: 第 7 週に入り、閉鎖のあった施設数は急激に減少しています。 第 7 週の施設種別では、幼稚園 5 件、小学校 3 件、その他 1 件でした。



4 迅速キット結果: 第 7 週では、迅速キット陽性例のうち、A 型 94.8%、B 型 5.2%、A、B 型ともに陽性 0.0%、となっています。B 型の増加があまりみられません。



5 入院サーベイランス: 基幹定点医療機関^{※2}における、インフルエンザの入院患者数は第 6 週の 12 人から第 7 週 19 人と増加しました。 入院例はシーズンはじめの数例を除いてすべて A 型です。年齢層別(累計)では、70 歳以上(42.4%)と 10 歳未満(40.2%)で 80%以上を占めています。



※2 基幹定点: 患者を 300 人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。

【お問い合わせ先】 横浜市健康福祉局健康安全課
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

TEL 045(671)2463
TEL 045(754)9815